

白浜レスキューネットワーク通信 2～6月号

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8

TEL&FAX0739-43-8981

<http://srnw.or.jp>e-mail yabiumi@gmail.com

理事長 藤藪庸一

郵便振替 00920-6-85589 口座名：白浜レスキューネットワーク
 紀陽銀行白浜支店普通預金 589389 口座名：NPO特定非営利活動法人
 白浜レスキューネットワーク

自殺者救済活動

2月1日～2月28日

電話件数 155 件

保護件数 1 件(男性 1 名)

共同生活者数 15 人

(男性 9 人、女性 4 人、中学 1 名、小学 1 名)

○16日、男性を保護。三段壁から電話があり保護に向かった。帰る場所がないので共同生活に加わった。

3月1日～31日

電話件数 170 件

自立件数 1 件(女性 1 名)

共同生活者数 14 人

(男性 9 人、女性 3 人、中学 1 名、小学 1 名)

○まちなかキッチンで働いている女性が近くのアパートへ引っ越した。

4月1日～30日

電話件数 135 件

保護件数 1 件(女性 1 名)

自立件数 2 件(男性 2 名)

共同生活者数 13 人

(男性 7 人、女性 4 人、中学 1 名、小学 1 名)

○まちなかキッチンで働いている二人の男性が町内のアパートへ引っ越した。

○白浜町からの依頼で女性を保護。共同生活へ加わることに。

5月1日～31日

電話件数 150 件

保護件数 1 件(男性 1 名)

帰宅件数 1 件(男性 1 名)

共同生活者数 13 人

(男性 7 人、女性 4 人、中学 1 名、小学 1 名)

○男性を保護。帰宅。

6月1日～30日

電話件数 157 件

帰宅件数 1 件(女性 1 名)

学生寮受け入れ 1 件(高校 1 年生 1 名)

共同生活者数 13 人

(男性 7 人、女性 3 人、高校 1 名、中学 1 名、小学 1 名)

○一年ほど滞在していた女性が家族のもとへ帰った。

○家族 4 人で、高校生の娘が、毎日高校に行くために寮生活をさせてほしいと相談に来られた。昼夜逆転の生活を改善するために自宅では難しいと判断したとのこと。受け入れることに。

生活自立支援活動

○4月に保護した女性は、仕事をする気力を失っているひきこもり状態であった。一カ月は様子を見ながら、農業に連れて行った。二カ月目からはまちなかキッチンへ入れていった。起きれない、忘れる、勘違いするなど、なかなか一筋縄ではいかない中、続けさせ現在に至る。まだ危ういが本人には一生懸命さが出て来ているように思う。

○昨年9月に保護したもう一人の男性は、目の治療がひと段落着いた。農業と保養所業務で頑張っている。周辺の草引きや掃除にも積極的に、よく働いている。

○まちなかキッチンで働く 40 代男性は、白浜町内のアパートへ引っ越しし、外からまちなかキッチンに勤務するようになった。

○まちなかキッチンで働く 30 代男性は、携帯やゲーム依存から抜け出せない。周りとのコミュニケーションにも難があり、いつくつかの具体的な改善ルールを作って、理解できなくても

実践することを促している。

一例)6時から始まる朝のミーティングには5時50分には会場に来ること。

夜は10時までには寝ること。

夕食は食べ終わっても19時までにはみんなと過ごすこと。片付けを手伝うこと。

○まちなかキッチンで働く30代の男性は、白浜町内のアパートに引っ越して、まちなかキッチンに勤務するようになった。掛け持ちの仕事をするようになったが、こちらへの説明と先方への説明がちぐはぐで支障が出てきた。掛け持ちした先の経営者と話し、結局、条件が合わず、掛け持ちを解消することになった。

○まちなかキッチンで働く20代の男性は、こちらでの生活も一年を過ぎた。父親が肩代わりしてくれた借金の返済を始めた。

○まちなか惣菜で働く50代女性は、近くのアパートへ引っ越した。自分の部屋をもったことで、生活を楽しむ雰囲気さがらに出てきた。

○まちなかキッチンとコンビニを掛けもちしている20代女性は、コンビニのオーナーが変わっても辞めずに努めている。地域ネコの活動が始まる中、猫の保護活動に協力している。

○紀南こころの医療センターに通院している50代男性は、死にたい気持ち、消えてなくなりたい気持ちが消えることはない。部屋にひきこもり、食事だけ起きて来る状態を続けている。通院は続けている。

○すべての借金を返し終わった女性は、独り言がひどく、周りに聞こえる声で人の悪口を言うことを繰り返した。病院にも通いながら、改善に努めている。

○精神的にしんどい50代女性は、家族が近くに住むところを用意してくれて地元に戻るようになった。責任を持たせて、やらないといけないことがあると、起きて動くが、何もないとひきこもる可能性があるという家族に伝えた。

○家族で共同生活に加わった40代男性とその子どもたち(中学1年男子、小学1年女子)は、それぞれよく頑張っている。親は親として成長し、子どもはそれぞれの学業に頑張っており、親子の関係を築きなおしている。

朝食を僕も一緒に食べることにし、一緒に準備

して片づけることを始めた。

○1月に保護した60代男性は、メンタルクリニックに通いながら農業に取り組んでいる。車の運転免許を持っていることから軽トラの運転を任せてみた。初めは自信がなかった男性でしたが、だんだん運転していたころを思い出して運転するのが気分転換になるところまで来た。

○保護観察処分中の男性を保護した。保護観察所と連絡を取りながら対応。あと二年期間が残っていることから、保護観察を抜けるところまでここでがんばろうと話した。サイクリングが好きでそれが一番の気分転換になるようだ。歯の治療が全くできてない状態で痛みもあり、近所の歯医者に通うことにした。

○学生寮を利用したいと相談に来た家族は、長女の高校生活がなんとか改善できるようにと願って、長女を寮に預ける決断をした。週末土曜日から日曜日は家に帰って、日曜日の夜から土曜日の朝まで寮生活をすることに。

自殺予防活動

・フードバンク、フードドライブ

グルメシティ白浜店、新庄店、東陽店、明洋店、万呂店、田辺ショッピングセンター、御坊店、各店舗のご協力ですべての食材を提供していただいている。

白浜町で子ども食堂を始めた大山畜産の子ども食堂に食材の提供を行なった。

また生活困窮者への食材配布も継続して行っている。

白浜町社協からお米の寄付を頂いた。

ふるさと納税の返礼品のお米だなどの寄付も沢山いただいている。

皆様のご協力に感謝している。

・明誠高校和歌山白浜SHIP(定時制高校)

4月新入生を迎え二年生3名、一年生2名となった。授業をして頂く先生方も総勢13名となり、多くの方々に支えられ運営されている。

今年度は課外授業が加わり、毎週月曜日に様々な課外授業を行っている。

熊楠記念館訪問

熊野古道散策

コスモスの郷(共同作業所)での体験
フードバンク事業参加
筏づくり
老人ホームでのハンドベル演奏

2023年 明誠高校和歌山白浜SHIP入学式式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本来ならば、先週、入学式の予定でしたが、コロナ感染により一週間、入学式が遅れたこと、初めにお詫びいたします。おかげさまで、コロナ感染も落ち着き、今日を迎えることができうれしく思っています。明日からは授業も始まります。ぜひ、皆さんと一緒に学んでいきたいと思ひます。

さて、この学校は、まだ四年目の新しい学校です。今まで卒業生は一人。在校生は3人。新入生の皆さんが加わって5人の小さな学校です。まだ、自前の校舎もありません。しかし、誇れることがあります。

それは、たとえ校舎や運動場がなくても、確かにこの学校は存在しているということ。多くの先生方や支援してくださる方々の思いが集められて、この学校は運営されているということです。皆さんが学び成長していくために力になりたいと思う心が集まって、この学校は成り立っているのです。

ぜひ、共に歩んでいきましょう。

これから高校生活を始める新入生の皆さんに、ぜひ頑張ってもらいたいことが3つあります。一つめは、学ぶことです。

これは教えられる姿勢が大事です。皆さんにとって興味のあることも、興味のないことも、先生方が教えようとするのを、素直に学ぶ姿勢を求めます。テレビやネットを通し、ありとあらゆるものすごい量の情報が瞬時に入ってくる時代、私たちは知らず知らずのうちに聞き流す術を身につけています。そうしないと情報におぼれていて、脳がパンクするからです。しかし、学校で学ぶときは、教えられる姿勢を意識して学んでもらいたいと思うのです。

二つ目は、体を鍛えることです。

早寝早起き朝ごはん、そしてバランスのいい食

事と適度の運動を心がけてほしいと思ひます。私たちが自分で管理できるこの体が、一番大事な資本です。何か夢中になることが見つかったときに、全力を注ぐことができるように体を強くすることを心がけてください。体の強さで人生が変わることだってあるのです。

三つ目は、人と関わることです。

運命と言ひますか、わたしの信仰で言わせていただひいていいならば、神様のご計画で、今回私たちは出会ひました。この出会ひから始まる人間関係が、皆さんにとっても、私たちにとっても将来にわたって大きな力になると思ひます。それぐらい強い関係を作りたいと思ひているのです。二年前に卒業した北村君は、今も連絡をくれます。近況報告や仕事での悩みなど話は多岐にわたります。私も北村君と「お互いに恥じない生き方をしよう」と卒業式で約束したことを覚えていて、北村君が恥ずかしい思ひをしないようにと頑張っています。皆さんともかけがえのない関わりを持って行ければと願っています。

ぜひ、この3つに取り組み、皆さんの未来への可能性を広げていく高校生活となるようにしまししょう。私たち教職員全員で、皆さんを励まし、教えていきたいと思ひます。

最後になりましたが、いつも私たちの活動にご協力くださっている皆様、変わらぬご支援をありがとうございます。本日も、こうして入学式にご臨席賜りましたことは、この上ない喜びであり励ましです。これからも私たちは、この学校教育を通して、この地域において、この地域に仕えていきたいと考えています。ぜひ、引き続き、ご理解とご支援をよろしくお願ひ致します。新入生のこれからの高校生活が祝福されますように祈り努力することを誓ひ式辞とさせていただきます。

・児童家庭支援センター設置に向けて

2月事前説明会申し込み

3月プロポーザル参加

委託決定

4月開所準備開始

5月8日開所式

開所式 センター長挨拶

本日は、ご多忙の中、私たちくまのっ子児童家庭支援センターのこのこの開所式にお越しく
ださり、誠にありがとうございます。

私たちくまのっ子児童家庭支援センターのこのこは、県内で二例目となる児童家庭支援センターです。みなべ町から新宮市、北山村までが活動範囲とされています。幼少期から高校を卒業するまでの子どもたちとそのご家庭を支援するために活動します。ぜひ、各行政機関、教育機関、福祉機関と連携を深め、虐待、いじめ、不登校、ひきこもりなど、未然に防ぐ活動を展開していきたいと考えています。もちろん、現在、課題を抱え支援が必要な子どもやご家庭に関わることはもちろんのことで、臨床心理士による面談など正確なアセスメントをもって解決へと向かっていける活動ができればと願っています。よろしくご挨拶致します。

私は、これまで、自殺防止の現場に23歳の時から関わらせていただけてきました。26歳の時から完全に三段壁いのちの電話を引き継がせていただき活動してきました。里親としても紀南児童相談所や中央児童相談所から虐待児童を預かって育ててきました。社会の中で孤立したり、行き詰ったりする子どもから大人まで支援してきた人は1000人を越えました。私は、これらの経験から確信をもって言えます。生まれてくる子どもを、ご家庭だけではなく、その周りの人たちが、どれだけ関わって育てていくかで、その子どもの将来が決まる。しかし、以前は地域で子どもを育てるという意識を持ちやすかったのですが、今は、核家族化が進み、各自のプライバシー保護が最優先され、周りの人が近くに住む子どもたちやご家庭に関わりを持つのが難しくなりました。だからこそ、人為的に、児童と家庭を支援する体制を作っていく必要がでてきているのです。「私たちは支援する活動をしているのです」「私たちは支援する立場を認めてもらって活動しているのです」という名札を持たなければ、各ご家庭に入っていくことができない時代だと思っております。

今回、こうして県の委託事業として、児童家庭支援センターを白浜に、紀南に、この熊野の地に立ち上げることができましたことは、この時代において、この地域の子どもたちや、そのご家庭の大きな助けになれる可能性を秘めています。一生懸命頑張りたいと思います。

今回お越しいただきましたご来賓の皆様は、これから私たちが活動していく上で、本当にお世話になる方々ばかりです。ぜひ、日頃から声をかけていただき、使っていただきたいと思えます。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくご挨拶致します。

最後になりましたが、この地域の子どもたちと家庭が守られ支えられていくように祈念してご挨拶とさせていただきます。
本日はどうもありがとうございます。

(ここまでの具体的な活動として)

各市町村の広報に啓発記事を掲載していただいた。

小中学校のケース会議を企画コーディネートを行い不登校対策を進めている。

保健センターの乳幼児健診に参加させていただき母子との関わりを持っている。

要対協の全体会議で啓発をさせていただいている。

臨床心理士による相談日を設け相談活動を展開している。

・コペルくん

夕方行なわれているコペルくんは、3名の子どもが参加している。

新たに、一人の元教師が、指導に加わってくださった。

・少年少女漂流隊

2023年も白浜第一小学校のクラブ活動に参加させていただくことに。副理事長と共に子どもたちの健全育成のために励みたい。

・牧師といのちの崖上映

6月13日(火)和歌山ビック愛で、映画が上映され、上映後にお話をさせていただいた。